

自然王国 ハマナス 香住町

ハマナスだけが自生種と考えられています。

花は紅色（まれに白色）で6月から8月ごろまで、枝の先端に1〜3個が開きます。黄色で多数の雄しべに5弁の広い花びらは、直径6〜8センチと大型で藪の中でも一際目立ち、強い芳香を放っています。実は平たく大きな球形で、8〜9月ごろ光沢のある赤色に熟します。肉質部は食べられますが、種が多くあまりおいしいものではありません。枝にはびつしりと刺が密生し、花枝には短い乳頭状の毛もあり、あらためてバラ科ということを実感します。

♪知床の岬にハマナスの咲く頃
。『知床旅情』の歌詞ですっかり北海道の花というイメージが持たれているハマナス。確かに北海道でよく見かける花ですが、ハマナスは北方系のバラ科の植物で本州では太平洋側で千葉県以北、日本海側では島根県まで点在分布していると言われています。

鳥取県では西伯郡中山町松河原と、鳥取市内海の白兔海岸に群生地があり、いずれも分布南限地帯のハマナスとして国の天然記念物に指定されています。

かつては但馬海岸にも各地で自生していたと思われませんが、現在では香住町安木海岸に見られるわずかな

安木浜で見られる群落は、安木川沿いと浜の東端とで、規模は小さく決して旺盛とは言いがたい群落です。東端の群落は、テリハノイバラやハマゴウに埋もれるようにして生息していて、オオマツヨイグサやコマツヨイグサの帰化植物に負けそうです。しかし、付近にはハマボウフウ、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、ハマダイコンやウンラン、ナミキノウなど海浜植物及びハマボス、タイトゴメなどの海岸植物が育ち、良い自然状態が保たれているとか。その中でもハマボウフウは、浜坂町でも見られますがここほど一面の群落は但馬海岸では残っていないそう

あざやかなピンク色が美しいハマナス。赤い実が花の右下に見える。刺があるのでさわるときには注意しよう。



です。

ハマナスも生育環境である自然に砂浜が埋め立てや護岸工事によって失われ、姿を消しつつあります。隣接した丹後・若狭の海岸でもほとんど見られなくなっていました。兵庫県レベルで特に保全を図る必要があるものをリストアップし、その貴重性について評価を行い選定している中で、ハマナスは絶滅の危機に

さらされているとしてAランクにあげられています。種の消滅が将来どのような形で私たちの生活に影響を与えるのか、はつきりしたことは誰もわかりません。しかし、一つの種を守る努力をすることは、その地域の自然のサイクルを守ることであり、地球全体の循環を遺すことだと言えます。資料写真提供協力：福原陽一郎さん



自然を大切に

総合口座・カードローン

街の親近バンク
但馬信用金庫

本店 / 〒668 豊岡市中央町17-8
TEL. 0796 (23) 1200

柳の魔力。あくまでもしなやかに。

豊岡特産・杞柳細工は伝統の技を今に引き継いでいる。

杞柳細工は但馬の地で生まれ、但馬の風土に育まれてきた伝統ある地場産業。起源は日本に帰化し但馬の国を開いたといわれる新羅国の王子、天日槍命の伝授によるという説が語り継がれています。奈良の正倉院にこの地でつくられた柳箱が保存されていることから、歴史の古さを感じさせます。

円山川に自生する「コリヤナギ」を原料に籠を編むことから始まり、江戸時代、当時の藩主・京極伊勢守高盛が豊岡に地を移してから、柳の栽培と加工技術を保護し、即売にも力を入れたために産業として成立し、全国に豊岡の柳ごおりの名を広めました。

杞柳細工には「飯ごおり」「柳ごおり」「柳花籠」があり、昔はそれぞれに専属の職人が大勢いたといいますが、現在ではめつきり数が減ってしまいました。

「柳花籠」をつくって三代目、井関道仁さんは15歳のときから柳細工を始めたといっています。

杞柳細工職人 井関道仁さん(豊岡市) 72歳

「家が代々、杞柳細工をつくっていましたが、自然に覚えませんでしたね。長男ですし、当たり前のように家業を継ぎました。花籠だけでも何十種類からの編み方があるんです。それだけでなく、自分で考えながら編み方も工夫しています。」

「見ているだけでは簡単そうに見えますが、編めるように材料をつくるのも一苦労。乾燥させたコリヤナギのまつすぐ伸びた茎を割りこを使つて、4〜3等分にしていくだけでも、なかなかうまく行きません。そこから、同じ厚さと幅を整えていきます。つくるものによって、厚さが違うとか。これを水につけてやわらかくしながら、縦横に使い、花籠の木型にそって編んでいきます。小さなもので半日、大きく手の込んだものになると完成するまで、一週間以上かかる」といいます。

「同じ力で編んでいくことや、縦と横のバランスがきちんとできないと美しい形は生まれません。」

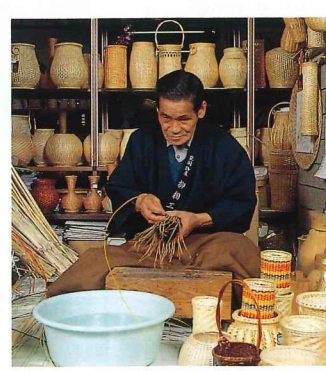
井関さんは、生地を染め粉を使つ

てコリヤナギを染め、カラフルな花籠に挑戦しています。

「色の組み合わせがむずかしいんですが、いつも新しいことにチャレンジしていかないと。」

伝統文化も時代の流れとともに、実用的なものからおしゃれなインテリアなどに用いられるようになってきました。新しい感性で“美”をめざしています。

現在、玄武洞観光さんの杞柳製品売場で杞柳細工の実演をしながら、杞柳細工のプロの職人を育てる「専門技術者養成講習」で受講生たちにも教えています。後継者を育てることも意欲を燃やす井関さんです。



こつこつとした細かな作業が続きます。力の入れ具合をマスターし、平行に編み上げていくだけでも至難の業。底や口の処理がうまくできるようになったら一人前。

吟醸純米 かすみつる 720ml詰

吟醸 香住鶴 720ml詰

真心の酒

香住鶴

伝統はいつの時代にも生きている

但馬の祭りシリーズ⑦

川下まつり(浜坂町)

宇都野神社の例祭を川下まつりといいますが、但馬三天祭りの一つにあげられています。家内安全、五穀豊穡、商売繁盛、無病息災...を祈つて「麒麟獅子舞」やホコ、ダシなどが町内を練り歩きます。

七月九日(土)〜十一日(月)
浜坂町内